# めぐみイエス・キリスト教会

2024年10月27日(日)第四主日礼拝
午前10時より
週報「通算第729号」

2024年標題聖句
マタイの福音書第6章33節
《まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。》

第一礼拝(教会にて)　毎週日曜日　午前10時～11時
第二礼拝※中止
聖書の学びと祈り会　毎週水曜日　午後6時～(各家庭にて)

牧師　鈴　木　竜　実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

# ◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】
【賛　美　Ⅰ】新聖歌170「マジェスティ」　p. 244
【交　読　文】№47　出エジプト記20章　p. 916
【賛　美　Ⅱ】新聖歌248「人生の海の嵐に」　p. 382
【使徒信条・主の祈り】
【前回説教】
【賛　美　Ⅲ】オリジナル曲「天には救いの喜び」
**【聖書朗読】ルカの福音書7章1節～10節（新約p. 123）**
【礼拝説教】《百人隊長のしもべのいやし》
【聖　餐　式】
【賛　美　Ⅳ】新聖歌166「威光・尊厳・栄与」　p. 236
【平和祈り】
【頌　　栄】新聖歌63「父・御子・御霊の」　p. 85
【祝祷後奏】

## ※本日の聖書箇所（ルカの福音書7章1節～10節）

7:1　イエスは、耳を傾けている人々にこれらの言葉をすべて話し終えると、カペナウムに入られた。
7:2　時に、ある百人隊長に重んじられていた一人のしもべが、病気で死にかけていた。
7:3　百人隊長はイエスのことを聞き、みもとにユダヤ人の長老たちを送って、自分のしもべを助けに来て下さいとお願いした。
7:4　イエスのもとに来たその人たちは、熱心にお願いして言った。「この人は、あなたにそうしていただく資格のある人です。
7:5　私たちの国民を愛し、私たちのために自ら会堂を建ててくれました。」
7:6　そこで、イエスは彼らと一緒に行かれた。ところが、百人隊長の

家からあまり遠くないところまで来たとき、百人隊長は友人たちを使いに出して、イエスにこう伝えた。「主よ、わざわざ、ご足労下さるには及びません。あなた様を、私のような者の家の屋根の下にお入れする資格はありませんので。
7:7 ですから、私自身があなた様のもとに伺うのも、ふさわしいとは思いませんでした。ただ、お言葉を下さい。そうして私のしもべを癒やして下さい。
7:8 と申しますのは、私も権威の下に置かれている者だからです。私自身の下にも兵士たちがいて、その一人に『行け』と言えば行きますし、別の者に『来い』と言えば来ます。また、しもべに『これをしろ』と言えば、そのようにします。」
7:9 イエスはこれを聞いて驚き、振り向いて、ついて来ていた群衆に言われた。「あなたがたに言いますが、私はイスラエルのうちでも、これほどの信仰を見たことがありません。」
7:10 使いに送られた人たちが家に戻ると、そのしもべは良くなっていた。

●ポイント1. マタイの福音書における平行記事から
※マタイの福音書8章5節～13節「百人隊長本人」 (新約p.13下段)

●ポイント2. 信仰とは？
※ヘブル人への手紙11章1節 「昔の人たちは」(新約p.451下段)
11:1 さて、信仰は、望んでいることを保証し、目に見えないものを確信させるものです。

●ポイント3. 十字架刑を執行したローマ兵と百人隊長とは？
※マタイの福音書27章54節「主が霊を渡された時」 (新約p.62下段)
27:54 百人隊長や一緒にイエスを見張っていた者たちは、地震やいろいろな出来事を見て、非常に恐れて言った。「この方は本当に神の子であった。」

## ◎ルカからの前回のメッセージ【主の言葉を聞き行なう人】

《主イエスは、公生涯の最初の頃には、神の国について、何度も語られました。そして、平地の説教に、一つのたとえを話されたのです。「私のもとに来て、私の言葉を聞き、それを行なう人がみな、どんな人に似ているか、あなたがたに示しましょう。その人は、地面を深く掘り下げ、岩の上に土台を据えて、家を建てた人に似ています。洪水になり、川の水がその家に押し寄せても、しっかり建てられていたので、びくともしませんでした。」と。

「地面を深く掘り下げること」とは、心の奥底に主のみ言葉を留め置くことです。「岩の上に土台を据えること」とは、主イエスをその人の人生の土台にすることです。そして、その上に「家を建てる」のです。

さて、その反面、み言葉を聞いて行なわない人については、「しかし、聞いても行わない人は、土台なしで地面に家を建てた人に似ています。川の水が押し寄せると、家はすぐに倒れてしまい、その壊れ方はひどいものでした。」と、主は言われます。「土台なし」とは、その人の心の奥には、主のみ言葉は留まっておらず、またその人に取って、主は本当の意味において主ではないことを言っています。

つまり、その人自身が、その人の人生の主であると言うことです。私たちは、自分の主が誰であるのか、明白にしなければなりません。

そして、そのことがはっきりとする時がやって来ます。それが、洪水です。川の水が押し寄せて来ます。「試練」の時こそ、その人の土台が明らかにされるのです。その人の信仰の真偽が問われるのです。

主の兄弟ヤコブは、『様々な試練にあうときはいつでも、この上もない喜びと思いなさい。あなたがたが知っているとおり、信仰が試されると忍耐が生まれます。そうすれば、あなたがたは何一つ欠けたところのない、成熟した、完全な者となります。』と、勧めています。主のみ言葉を聞いて行なう者にこそ、祝福が豊かに与えられるのです。》

## ◎お知らせ

※11月3日の第一主日礼拝は、平常通りです。ルカからです。